



MASHIRO
ましる訪問看護ステーション

1

January 2025

毎月発行

Mashiro Letter

Policy 「ましる」の運営ポリシー

ましるでは、東川口を中心としたこの地域に根差し、地域の皆さまの生活に寄り添った訪問看護サービスを提供いたします。

ご利用者のひとりひとりが最期まで「私らしく」生きることができるよう、また、そのご家族や介護・介助をされる方までが安心して日々の生活を送ることができるよう、誠心誠意のサポートをすることが私たちの務めです。

そのためには、私たちが日々の訪問の中でご利用者の病状・心身の状態・生活環境を正しく把握し、私たちと共にご利用者のサポートをしていく、主治医・かかりつけの先生をはじめとした医療関係の皆さまや、ケアマネジャーをはじめとした介護関係の皆さまへの、確かな情報共有をさせていただくことが必要不可欠だと考えております。

連携先となる皆さまから、「ましるなら安心して任せられる」と信頼して頂ける訪問看護ステーションとなるよう、迅速・丁寧なコミュニケーションを心がけてまいります。

管理者 角田 幸恵 (看護師)



Service サービス提供の特徴3つ

① 全領域の受け入れ

慢性期から終末期、小児(新生児)から老年、がん、難病、精神…等、あらゆる疾患・状態・領域のご利用者を受け入れます。

② 24時間365日体制

看護師による24時間のオンコール緊急対応体制に加えて、土日祝をはじめとした365日での定期訪問もお受けいたします。

③ 看護・リハビリによる生活支援

看護職とリハビリ職が一体となってご利用者の生活をサポートいたします。

基本情報

事業所名 ましる訪問看護ステーション 〈訪問看護指定番号 1160290791〉
所在地 埼玉県川口市戸塚 2-22-33 エスポワール 408 ※「東川口」駅 徒歩 1分
運営時間 24時間 365日 ※定休日なし
専門職 看護師 6名、理学療法士 3名、作業療法士 2名



HP



LINE WORKS



訪問看護申込書



訪問エリア



埼玉県川口市、さいたま市緑区、越谷市、草加市 …等

新規のご相談につきまして、お電話・FAX・Mailにて承っております。お気軽にご連絡ください。

※新規のご相談は、月～金曜日(祝日を除く)、9～18時の間に順次受け付けをさせていただきます。
※訪問スケジュールについてもまずはご相談ください。ご利用者希望に合わせた調整や、土日祝の定期訪問も含めた365日での対応をいたします。
※退院カンファレンスにつきましても積極的に参加いたしますので、入院中(退院前)につきましても是非お声がけください。

MASHIRO
ましる訪問看護ステーション

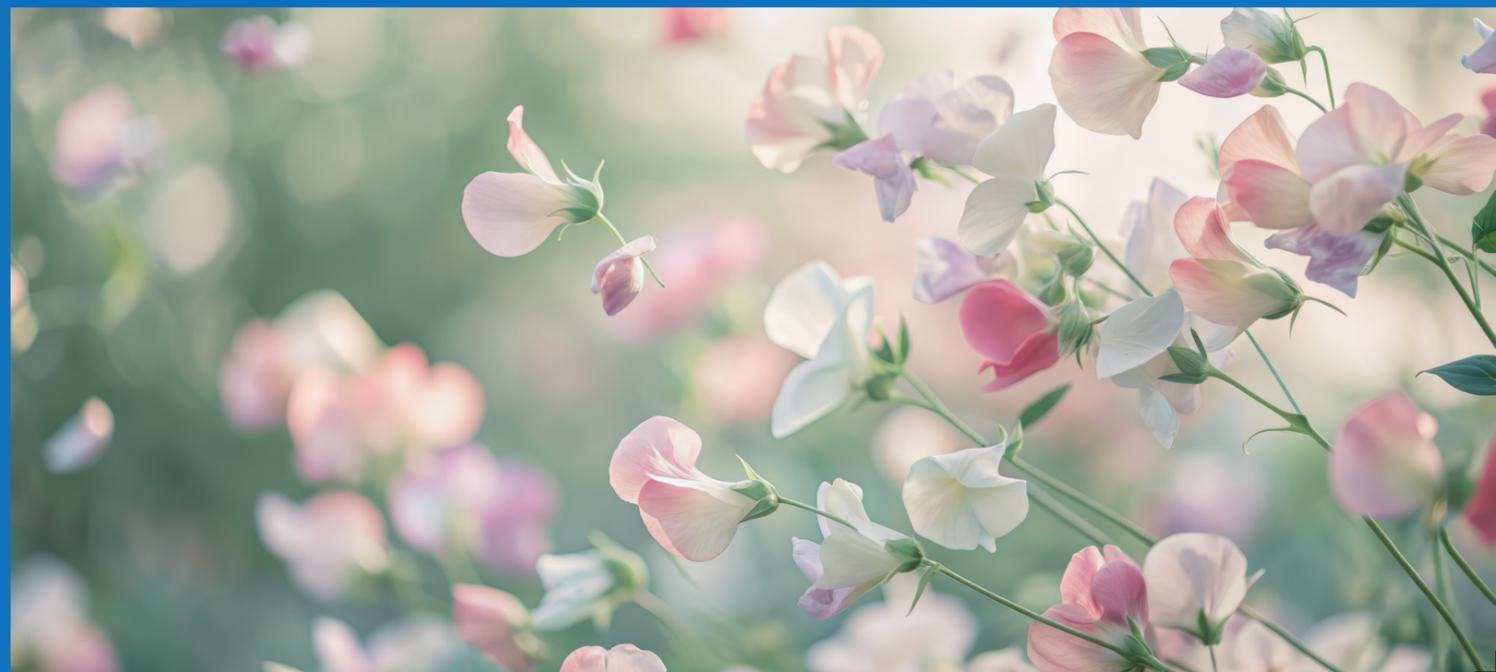
☎ 050-5482-3534 Fax 048-611-7212
✉ info@mashiro.life
〒333-0811 埼玉県川口市戸塚2-22-33 エスポワール408号室

e-mail



Contents

- ・スタッフ紹介
「私が、【訪問看護】で大切にしていること」
- ・事例紹介
「麻痺のあるご主人と疲弊する奥様、
訪問看護の介入による生活の変化は？」
- ・お知らせ



私が、【訪問看護】で大切にしていること。

Mashiro Member
今回のテーマ



名前 角田(カクタ)
資格 看護師

一言コメント

埼玉に引っ越して早2年がたち、少しずつ行きつけのごはん屋さんが増えてきました！地域のことをもっともっと知りたいので、オススメを教えてください！嬉しいです！



名前 小玉(コダマ)
資格 看護師

一言コメント

「ましろ」で働き始めてから、5年ぶりに車の運転をしました。慣れない運転と慣れない土地、また、川口特有(?)のトラックの多さに緊張しながら、日々運転をしています！

臨床経験

病棟(外科、脳外、循環器、泌尿器、呼吸器内科、整形外科)で、主にがんの診断から手術、化学療法や放射線などの治療、そして終末期看護を経験しております。特に、緩和ケアチームでは患者さんが穏やかな日常を送れるようなケアについて、悩み・考えながら実践をしてきました。訪問看護においても、利用者さんが心のうちを話せるような雰囲気を作ることを常に心掛けております。



名前 山田(ヤマダ)
資格 看護師
認知症サポーター

一言コメント

趣味は家族旅行です。綺麗な景色を眺めたり、その土地の美味しい物を食べたりすることが、心を癒してくれ日々の活力となっています。

臨床経験

看護学校を卒業後、県内の病院に入職し消化器内科で勤務をした後、クリニック、認知症専門デイケア、デイサービスとさまざまな職場で経験を積みました。もともとは他人とのコミュニケーションが苦手でしたが、訪問看護師として様々なご利用者と関わらせていただく中で、少しずつ苦手意識も薄れていったように感じています。現在では、ご利用者やご家族とお話をすることがとても楽しみです。

臨床経験

病棟(整形・形成、外科・脳外科)、皮膚科クリニック、手術室を経験しています。都内の訪問看護ステーションで5年ほど勤務をした後、転居を機に「ましろ」に辿り着きました。整形外科では内側の骨に関して、形成外科では外側の皮膚に関して学んでいます。特に形成で培った褥瘡ケアの知識と経験を、訪問看護の現場でも活かしていきたいです！



名前 西山(ニシヤマ)
資格 看護師

一言コメント

ご高齢のご利用者の昔話を伺うのが好きです。当時の生活の様子など、貴重なお話を聴かせていただくと嬉しいです！

臨床経験

小児科、外科、NICU、老人ホームと、小さなお子さんからご高齢者まで幅広い患者さんと接してきました。様々な年代の方との関わりを通じて、「その人に合ったケア」を提供することが何よりも大切だと学びました。訪問看護でも同じく、ご利用者やご家族が自宅で安心して過ごしていただけるよう、一緒に考え、寄り添う姿勢を心掛けていきたいです。

麻痺のあるご主人と疲弊する奥様、訪問看護の介入による生活の変化は？

Case study

A氏(仮名) / 80代前半
疾患名: 前立腺肥大症、脊髄損傷 / 要介護認定: 要介護5



脊髄損傷により上下肢麻痺あり。特に下肢の動きが悪く、転倒リスクから外出も困難に。それに伴い介護者の負担が増大。以前は、デイサービスに通っていたが、歩行が難しくなっていたことからベッド上で過ごす時間が増えていった。介護タクシーを利用していたが、通院も困難になっていき、訪問診療に切り替えるため、医師と連携を取りつつ週1~2回での訪問看護として介入をすることに。キーパーソンは奥様。ご高齢夫婦の二人暮らしで、奥様が全介助をしていることから疲弊されている様子。以前は施設入所の話も出ていたが、「二人で暮らしたい」といった思いから自宅生活を選択された経緯あり。訪問看護では、状態観察と入浴などの清潔ケア。転倒を繰り返しているため緊急時の対応を依頼される。ご本人は「歩けるようになりたい」といった希望を持っており、週2回のリハビリも入れることになる。

アセスメント

40代で脊髄損傷。その後も趣味の社交ダンスを楽しむなどを行っていたが、徐々に活動量が少なくなり廃用が進行。思ったように身体が動かないことによるご本人の苛立ちや、連日の介護負担による奥様の疲弊が、夫婦関係性の悪化に繋がっている様子。幻覚症状や夜間せん妄が悪化していき、奥様に対して救急車や警察を呼ぶように訴えることも。夫婦ふたりでの生活から、各種の問題に対する解決の糸口が見えず、在宅生活に対して困難さを感じるようになっていったと考える。

提供したケア/リハビリ

週1回の訪問看護と週2回の訪問リハビリで介入を開始。初回訪問時は、転倒後に立ち上がれずそのまま床で寝ていた。自宅での入浴は困難と判断し、訪問入浴の導入を進める。また、夜間不眠から転倒に繋がっている所見が見受けられたので、医師に状況報告を密に行いつつ、睡眠剤や安定剤の調整を行っていった。頻回に緊急コールが入り、転倒しているA氏を起こしにベッドに戻したり、言い争っている夫婦の仲介に入ったりすることも。ご夫婦二人だけの時間が双方の不安を強めていたため、ケアマネジャーと相談しつつ訪問看護を週2回に増回。看護師が仲介に入りながら、夫婦の生活状況の確認や双方の気持ちの表出を促す時間を作っていく。双方の認識のすり合わせを助けるため、カレンダーやメモを活用しながら視覚的アプローチを実施。

アウトカム

日曜日以外は毎日第三者が介入する状況をつくり、困りごとをその日の間に解決できる環境が整ったこと、専門家が緊急時に駆けつけてくれる安心感を得ることができたことで、徐々に家庭環境が改善をされていった。身体機能面では、洗面所で立位をとり歯ブラシや髭剃りを行うことができるようになり、そのことで奥様の介護負担も軽減された。現在では、緊急連絡が鳴ることがほとんどなくなり、ご本人・奥様の表情も朗かになった。ご夫婦で穏やかな時間を過ごされている様子が見て取れるようになった。

ご利用者からのコメント

A氏

「いろんな人に来てもらって、二人じゃわからないことばかりだったので、本当に感謝しています。最初のころは、転んで助けてもらったり、その後は髪の毛を洗ってもらったり。みなさんが、頑張ってくれているから、自分も頑張ろうといった思いになりました。今は箸で甘納豆をつかんで食べる練習をしたりして、少しでも自分でできることを増やしたいと思ってやっています。元気になって、明るくなれました。本当に良かったです。」

奥様

「みなさんのおかげで喧嘩もなくなったり、夜も眠れるようになりました。困るとすぐ来てくれるし本当に感謝しかないです。最近は、皆さんが来てくれることがすごく楽しみです！」



訪問看護師からのコメント



介入当初はご本人のせん妄状態が強く、意思確認も困難だったため、主治医やケアマネへの報告・相談・情報共有は特に密に行いました。訪問時は、ご本人の言葉を否定することなく受け止めること、介護により疲弊されている奥様への声掛けやフォローを厚く行うことを心掛けました。また、口頭説明だけではなく、メモやカレンダーを活用した視覚からのアプローチを行い、ご本人と奥様の共通認識を取っていくように丁寧な対応を重ねていきました。内服調整や不安の解消が進むにつれてせん妄症状が無くなっていき、みるみる表情も明るくなり笑顔が多くなっていったことが印象的でした。介護をされる奥様からも精神的な余裕が見られるようになっていき、「みなさんのおかげ」といった有難い言葉を頂けたことがとても嬉しかったです。



名前 小玉(コダマ)
資格 看護師

臨床経験

病棟(整形・形成、外科・脳外科)、皮膚科クリニック、手術室を経験しています。都内の訪問看護ステーションで5年ほど勤務をした後、転居を機に「ましろ」に辿り着きました。整形外科では内側の骨に関して、形成外科では外側の皮膚に関して学んでいます。特に形成で培った褥瘡ケアの知識と経験を、訪問看護の現場でも活かしていきたいです！

Mashiro News

ましろニュース

- 「ましろ」のメンバーや訪問看護の現場について地域の方にとって頂くことを目的として「ましろレター」を定期発行することといたしました。月1回・月の中旬頃を目安に定期発行してまいりますので、これからどうか、よろしくお願いいたします。
- 25年1月より、作業療法士のメンバーが加入いたしました。これで、看護師6名、理学療法士3名、作業療法士2名となります。